

Drobo 機能紹介

Drobo DR

※本書に記載の内容は予告なく変更する場合がありますので予めご了承ください。

Rev.3.1

目次

1) Drobo DR とは.....	3
2) Drobo DR に必要な要件	4
3) Drobo DR を使用する前に確認・行うこと	4
4) Drobo をターゲットとして設定する	5
5) Drobo をソースとして設定する	6
6) Drobo DR を開始する	8
同期が失敗する主な原因：	8
7) Drobo DR を停止する	9
8) サマリーログを確認する	9
同期のログを保存する	10
9) ソース側の Drobo DR を無効にする	10
10) ターゲット側の Drobo DR を無効にする	11

1) Drobo DR とは

Drobo DR とは、Drobo 内に保存した文書や画像などのデータを、別のもう 1 台の Drobo 内に複製することができる拡張機能です。この機能では、ネットワークを介して、ターゲット（データの複製先となる Drobo）にソース（データの複製元となる Drobo）からの複製データを簡単に作成することができるので、別の場所に最新の複製データを確保しておくことで、予期せぬ災害等からデータを守ることができます。

初回の複製データ作成完了後は、前回バックアップ時からの変更点だけを更新する（差分バックアップ）のため、迅速で効率的なデータ複製が可能です。



※画面は Drobo B810n のものです

2) Drobo DR に必要な要件

- ・ 対応機種：Drobo 5N2 および Drobo B810n
- ・ 必要台数：同じ機種 of Drobo 2 台
※ターゲットとソースの Drobo はそれぞれ同じ機種である必要があります。
Drobo 5N2→Drobo B810n のような、異なる機種間で Drobo DR の機能を使うことはできません。
- ・ ターゲットの Drobo の空き容量が、少なくともソースの使用容量よりも大きいこと
- ・ Drobo Dashboard のバージョン：3.1.1 以上
Drobo 5N2 のファームウェアバージョン：4.0.0 以上
Drobo B810n ファームウェアバージョン：3.5.12 以上であること
※上記のバージョンは、本書作成時での最新バージョンです。

3) Drobo DR を使用する前に確認・行うこと

1. Drobo DR をサポートしている Drobo Dashboard がインストールされていること、および最新のファームウェア※を適用していることを確認してください。
(※前述の **Drobo DR に必要な要件** をご参照ください。)
2. Drobo Dashboard を開き、使用している Drobo が、同じネットワーク内にあることを確認してください。
3. Dashboard 上で、ソースとして使用する Drobo とターゲットとして使用する Drobo が表示されていることを確認してください。
※互いの IP アドレスまたはホスト名 (ホスト名とは Drobo 本体に割り当てられた名前前のことを意味しています。) を認識しているか確認してください。これは、ソースとターゲットの Drobo それぞれが同じサブネット上にあり、サブネットマスクが一致していることが必要であるためです。
4. 以下の点に注意し、Administrator (管理者) のアカウントを作成してください。
 - ① ソースとターゲットの両方で同じ ID とパスワードを使用してください。
 - ② ID は英数字のみを使用してください。※本項目を行わないと、ターゲット側の Drobo DR を無効に (P.10 参照) した後にログインすることができなくなります。
5. Administrator として、使用する Drobo 2 台にそれぞれログインしてください。

4) Drobo をターゲットとして設定する

Drobo をターゲットとして設定すると、ソースからの複製データを受け取ることができるようになります。ターゲットの Drobo は複製データ受け取り専用として使用することを推奨しております。以下の手順に従って設定してください。

なお、ターゲットの Drobo 内にあるデータは全て失われます。

1. Drobo Dashboard を開き、ターゲットとして設定したい Drobo を選択して「Drobo DR」をクリックしてください。
2. Drobo DR のページが開きます。「Drobo DR のセットアップ」のボタンをクリックしてください。
3. 表示されたウインドウで「ターゲットとして同期化」をクリックしてください。
4. 確認メッセージが表示されます。ターゲットの Drobo 内のデータが空であることを確認して、「はい」をクリックしてください。
5. 以下の画面が表示されます。下図赤枠内のパスワードに、ログイン時に使用したパスワードを入力してください。

6. 「OK」のボタンをクリックしてください。これでターゲットの設定は完了です。
7. Drobo DR の画面上部には「ターゲットとして同期化」と表示され、「Drobo DR を開始する」のボタンが無効化されます。

※Drobo がターゲットとして設定されると、その Drobo の設定やアクセス共有、共有設定ができなくなります。ソースからデータを同期させると、ターゲットはソースに存在する読み取り専用の共有名を表示します。共有ステータスは RO(Read-Only)と表示されます。

Mount	Share Name	Status
<input type="checkbox"/>	JoyLaptopbackup	Available (RO)
<input type="checkbox"/>	JoYSkywalker	Available (RO)
<input type="checkbox"/>	Public	Available (RO)

5) Drobo をソースとして設定する

Drobo をソースとして設定すると、ターゲットとのデータ同期を行うことができます。以下の手順に従って設定してください。

1. Drobo Dashboard を開き、ターゲットとして設定した Drobo を選択して、Drobo 設定 > ネットワーク をクリックし、表示された IP アドレスをメモしておいてください。
2. 「すべての Drobo」をクリックし、ソースとして設定したい Drobo を選択して「Drobo DR」をクリックしてください。
3. Drobo DR のページが開きます。「Drobo DR」のボタンをクリックしてください。
4. 表示された画面から「ソースとして同期化」をクリックしてください。
5. 以下の画面が表示されます。次ページの図赤枠内のパスワードとパスワードの確認に、ログイン時に使用したパスワード※を入力してください。(※ターゲットの Drobo で入力したものと一致させる必要があります)

6. 上図黄色枠内の IP アドレスに、ターゲットとなる Drobo の IP アドレス（前ページ項目 1 にてメモしておいたもの）を入力してください。
 ※ソースは IP アドレスでターゲットを認識します。設定後にターゲットの IP アドレスが変更されると、同期は失敗します。
7. 必要に応じて、「スケジュール」の項目から同期の開始時間および同期を行う時間の間隔を設定してください。時間の間隔は 2, 4, 6, 8, 12, 24 時間から選択することができます。なお、**Drobo DR はソース側の Drobo からのみ設定できます。**
 ※スケジュール設定された同期中にソースへの電源供給が遮断されるとデータの複製も中断されます。次回のスケジュールで再び同期を行います。
8. 「OK」のボタンをクリックしてください。これでソースの設定は完了です。

6) Drobo DR を開始する

1. Drobo Dashboard を開き、「すべての Drobo」をクリックし、ソースとして設定されている Drobo を選択します。
2. 「Drobo DR」をクリックしてください。
3. 「今すぐ Drobo DR を起動」ボタンをクリックします。

※このボタンが使えない場合は、ターゲットとして設定されている Drobo を選択してしまっているか、Drobo DR が使えない状態にあるか、Drobo に挿入した HDD が正しく認識されていない可能性があります。この Drobo を再びソースとして使えるようにするには、P.4「**Drobo をソースとして設定する**」を参照してください。

※ソースがターゲットの認証を行っている間、Drobo DR ボタンはグレーアウトして使用できなくなります。認証が成功すると同期が始まり、画面に「Drobo DR が進行中」と表示されます。「今すぐ Drobo DR を起動」ボタンの表示は「現在の Drobo DR を停止」に変わります。同期が完了すると、ボタンの表示は「今すぐ Drobo DR を起動」に戻ります。

※同期が失敗すると、「今すぐ Drobo DR を起動」ボタンは使えなくなります。その際はエラー内容をログでご確認ください。

同期が失敗する主な原因：

同期が正しく行われているか定期的に Drobo Dashboard を確認するようにしてください。

- ・ターゲットのパスワードが、ソースのものと一致していない
- ・ターゲットの IP アドレスが、ソースの設定時に登録したものと一致していない
- ・ターゲットまたはソースがネットワークに繋がっていないか、電源が入っていない
- ・ターゲットもしくはソースの Drobo に不具合が発生
- ・搭載している HDD に不具合が発生

※「現在の Drobo DR を停止」ボタンを押すと同期を停止させることができます。手動での同期中にソースへの電源供給が遮断されるとデータの複製も中断されます。同期を再開するには、上記手順を繰り返す必要があります。

7) Drobo DR を停止する

Drobo DR を停止するときは、以下の手順に従ってください。

1. Drobo Dashboard を開き、ソースとして設定されている Drobo を選択してください。
2. 「Drobo DR」をクリックしてください。
3. 「現在の Drobo DR を停止」をクリックしてください。Drobo の同期が停止します。同期を再開する場合は「今すぐ Drobo DR を起動」をクリックしてください。

8) サマリーログを確認する

サマリーログは Drobo DR で同期をしている Drobo 間でのやりとりを記録したものです。サマリーログを確認することで同期の開始、完了、失敗の状況を確認することができます。スケジュール設定をしている場合（※P.4 参照）は、次回の同期スケジュールの確認もできます。なお、サマリーログはソースとして設定されている Drobo からのみ確認することができます。

サマリーログは同期を行った後に作成されます。バッファ（データを一時的に蓄えておく記憶領域）が一杯になると、古い情報から消去され新しい情報が書き込まれます。サマリーログの情報は、テキストファイルとして出力して保存することができます。

サマリーログを最新の内容に更新するには、以下の手順に従ってください。

1. Drobo Dashboard を開いて、ソースとして設定されている Drobo を選択してください。
2. 「Drobo DR」をクリックしてください。以下のような画面が表示されます。

イベントタイプ	結果	イベント時間	追加情報
完了した DroboDR	成功しました	04/24/2017 12:00:13	-
次にスケジュールされた Dro...	-	04/24/2017 14:00:00	バックアップ先 1...
完了した DroboDR	成功しました	04/24/2017 12:00:13	-
起動済みの DroboDR	-	04/24/2017 12:00:13	バックアップ先 1...

3. 「サマリーログの更新」をクリックしてください。

同期のログを保存する

1. Drobo Dashboard を開いて、ソースとして設定されている Drobo を選択してください。
2. 必要に応じて、Administrator のユーザー名とパスワードでログインしてください。
3. 「Drobo DR」をクリックしてください。
4. 「ログの詳細の保存」のボタンをクリックしてください。「名前を付けて保存」のウィンドウが開きます。
5. 保存するファイル名を入力して保存ボタンをクリックし、お使いのコンピュータ内に保存してください。
6. 保存したログを開くと、テキストファイル形式で表示されます。最新のやりとり内容と前回の同期について記載されています。

9) ソース側の Drobo DR を無効にする

Drobo DR を無効にするには、ソースとターゲットの両方を無効にします。ソースを無効にすると、ソース側の Drobo の Drobo DR 機能も無効となります。

1. Drobo Dashboard を開き、ソースとして設定されている Drobo を選択してください。
2. 「Drobo DR」をクリックしてください。
3. Drobo DR のページが開きます。「Drobo DR のセットアップ」のボタンをクリックしてください。
4. 次ページの画面が表示されます。「無効です」をクリックしてください。確認メッセージが表示されます。

DroboDR のセットアップ drobo

無効です
 ソースとして同期化
 ターゲットとして同期化

ログイン詳細

パスワード

パスワードの確認

(ソースとターゲット Drobo のパスワードは一致する必要があります)

IP 設定

IP アドレス

(ターゲット Drobo の検索に使用されます)

スケジュール

開始時間 (ホストのローカルタイム) 時間間隔 (時間)

12 :00 AM 24

OK キャンセル

5. 「はい」をクリックしてください。ウインドウ内の設定項目がグレーアウトして使用できなくなります。
6. 「OK」をクリックしてください。少し待機するようメッセージが表示されます。その後 Drobo DR のページへ戻ります。

10) ターゲット側の Drobo DR を無効にする

ターゲットを無効にすると、他の Drobo と同じように NAS デバイスとして使うことができるようになります。Drobo DR を無効にする前に設定していた Administrator のアカウント、ユーザーアカウント、共有許可設定、データ等が有効になります。

※Administrator アカウントを作成していない場合は

ターゲット側の Drobo DR を無効にする前に、Administrator アカウントを作成して「今すぐ Drobo DR を起動」ボタンをクリックしてください。ターゲットを無効にした後でも Drobo にログインすることが可能です。

1. Drobo Dashboard を開き、ソースとして設定されている Drobo を選択してください。
2. 「Drobo DR」をクリックしてください。
3. Drobo DR のページが開きます。「Drobo DR のセットアップ」のボタンをクリックしてください。
4. 以下の画面が表示されます。「無効です」をクリックしてください。

The screenshot shows a dark-themed dialog box titled "DroboDR のセットアップ" (DroboDR Setup) with the "drobo" logo in the top right corner. At the top, there are three radio button options: "無効です" (Disabled), "ソースとして同期化" (Sync as source), and "ターゲットとして同期化" (Sync as target). The "無効です" option is selected and highlighted with a red rectangular box. Below these options are three sections: "ログイン詳細" (Login details) with fields for "パスワード" (Password) and "パスワードの確認" (Confirm password), with a note "(ソースとターゲット Drobo のパスワードは一致する必要があります)" (Source and target Drobo passwords must match); "IP 設定" (IP settings) with a field for "IP アドレス" (IP address) and a note "(ターゲット Drobo の検索に使用されます)" (Used for searching target Drobo); and "スケジュール" (Schedule) with "開始時間 (ホストのローカルタイム)" (Start time (host local time)) and "時間間隔 (時間)" (Interval (time)) fields. The start time is set to 12:00 AM and the interval is 24 hours. At the bottom, there are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons.

5. Administrator のアカウント、ユーザーアカウント、共有許可設定、データ等をソースと一致させるためアップデートが実行されるというメッセージが表示されます。
6. 「はい」をクリックしてください。ウィンドウ内の設定項目がグレイアウトして使用できなくなります。この Drobo 内のファイルは読み取り専用ではなくなり、Administrator のアカウントとパスワードでログインすればアクセス可能になります。
7. 「OK」をクリックしてください。その後 Drobo DR の画面へ戻ります。